

2019年(平成31年)

第134号

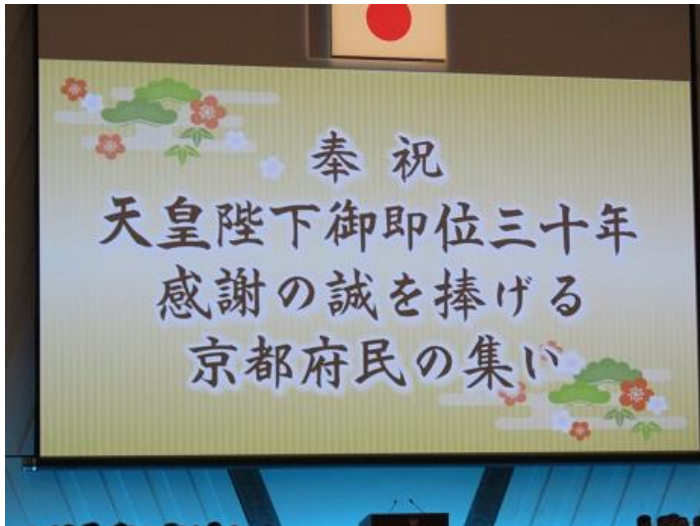
(2月1日)

平安月報
The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

奉祝 天皇陛下御即位三十年 感謝の誠を捧げる京都府民の集い

1月26日、京都市左京区の国立京都国際会館において「奉祝 天皇陛下御即位三十年 感謝の誠を捧げる京都府民の集い（主催：天皇陛下御即位三十年京都奉祝委員会、会長：元京都府知事 荒巻禎一氏）」が開催され、府内各地から神職や政党関係者ら約2千人が集まり、京都教会からも62名が参加しました。



第一部式典、第二部演奏会で構成され、式典では荒巻会長が式辞で、1994年の平安建都1200年式典の際に陛下が「京都は父祖の地」と述べられたエピソードを紹介。「皇室と国民を結ぶ信頼の絆がより一層、強くなってほしい」と話されました。

また奉祝の辞の中で門川市長も、京都市民は両陛下に対し「お帰りなさい」と言うこと自体が京都らしいと披露するとともに、全国で唯一、御所があるのも京都であり、文化庁京都移転に関連し京都は日本のふるさとであって、今後100年後、1000年後も皇室の方が来られる都市にしたいと抱負を述べられました。

現職時、両陛下に随行された前京都府知事の山田啓二氏は、16年間の知事時代に13度も入洛されたこと

に触れ、これは全国の中でも京都ならではの披露。西陣などの伝統産業の現状を説明させて頂いたと述懐されました。また平成20年の源氏物語千年紀では、日本が世界に誇る長編文学作品「源氏物語」が、平安王朝における宮廷生活を中心に紫式部により著され、我が国の記録に現れた著述の年（1008年）から1千年を迎えたことを記念し、オール京都で取り組んだもので、一地方自治体開催の催しに両陛下がお越し頂けることになったことに心が震えたと語られました。

両陛下は暑い日も寒い日も車の窓を全開され、常に国民に寄り添われたと述懐し、今後はゆっくりと京都にお越し頂きたいと述べられました。

式典終了後は「京都行幸啓記録」が上映され、御即位直後の陛下のお若い頃など、懐かしい写真が披露されました。

第二部演奏会では、陸上自衛隊中部方面音楽隊が祝典行進曲や日本民謡メドレー、行進曲「威風堂々」第一番など6曲目を披露。ソプラノ歌手、鶯（つぐみ）真衣氏の歌声に酔いしれました。

だとして、彼女に教わりました。頭法話は「自己を進化してゆこう」です。感情に流されず、今の自分がすべきことを見出し、確実に実践することが進化することだ

先月の全豪オープンテニスで、大阪なおみ選手が優勝し、世界ランキング1位になりました。日本人初の快挙の報は世界中を駆け巡りました。決勝戦の第1セットを先取したが、第2セットはあと一つで勝利するという一歩手前で逆転されました。取り乱した彼女の姿を見て、負けるとは思わなかった。だが、最終セットでは気持ちを取り直して、最後には栄冠を勝ち取りました。感情を抑えて、勝ち負けにこだわらず、一点一点を確実にとるように、自分のプレースタイルに徹したそうです。精神的に強くなったと評価された「精神面で5歳ぐらいはなれたかな」と心えました。厳しい試合を乗り越えていくたびに、確実に心身ともに強くなって、世界のトップになれたのでしょ

時事刻々

今月のことば ～人を思いやる「心の習慣」～ 京洛支部 組長 三木希衣子

今月は、京洛支部、組長のお役を頂いております、三木希衣子が、担当させて頂きます。宜しくお願い致します。

会長先生のご法話「人を思いやる「心の習慣」を拝読させて頂きました。

「得は徳に通じる」の所から、体験を深くかみしめる事が出来ました。

昨年11月、近所に70代後半のご夫婦が引っ越しのあいさつにみえました。感じの良いご夫婦でしたが、その後奥さんの姿が見えず、心配でした。近所の人から、筋肉痛で寝たきりの状態と聞きました。その後、救急車で運ばれたと聞きました。

私は、ご供養して念じさせて頂きました。思いがけず、ばったりと娘さんと会う事が出来たのです。「圧迫骨折で入院しましたとの事でした。私は病名がわかり安心しました。すぐに近所の人を誘い、お見舞いに行きました。奥さんは、とても喜んで下さいました。

「引っ越してすぐにこんな目にあって」と嘆いておられましたが、近所にこんなに温かい人が居られるので「家に早く帰りたいです」と言って下さいました。

会長先生から「要するに精進によって、それが心の習慣になれば人を思いやる気持ちを自然に行動にあらわせるということです」と、学ばせて頂きました。

ご夫婦の出会いのおかげさまで、確認することができました。

「すべては一つ」という所の「自分本位のとらわれや執着を離れて、ものごとの真実を見極める」と言うことを、学ばせて頂きました。

私は、ボランティア活動をして、12年になります。その中で、毎回一回グループの勉強があります。私の担当の時、思いもよらず、先生や仲間から、不条理と思った意見を頂きました。

今まで感じた事のなかったほど落ち込み、憤りさえ感じました。長い間、頑張ってきましたが、やめる方に考えてしまいました。

今まで努力し、頑張ってきた12年間を振り返ることができました。仏さまからのメッセージは何か、苦しみはどこから出ているのか、相手の意見が受けられない自分を見つめ考えました

「そうだ、私の事を大切に思って、言って下さっているんだ」と気づかせて頂きました。自分の心グセが、素直に相手を受け入れられない、自分が自分を苦しめていた事に気づきました。

会長先生から「相手と一つになれば、慈悲をしているといった意識もしないまま、その思いやりが、お互いの喜びや心の成長に結ばれていくのです」と学ばせて頂きました。

これからの人生、私はまだまだ意識しないとできませんが、心の習慣になるように素直に精進して参りたいと思います。ありがとうございました。

合掌

元旦参り ～自己を進化させていくことが大切～

1月1日早朝、京都教会法座席において元旦参りが行われ、多くの会員が参拝しました。

読経供養の後、門川市長挨拶、国会議員挨拶、京都佼成議員懇話会の紹介と続きました。



門川市長は挨拶の中で平成30年は災害が多かったと振り返り、3度の補正予算で対応できたこと、京都市内では災害の死者が出なかったことが幸いだたと述べられました。そして災害時は地域の絆が大切だと実感、地域の安全は地域で守っていこうとする、地域力を感じたと市民のつながりを褒め讃えられました。

また、自分のことよりも人さまを優先される佼成会員に感謝すると述べ、大きな杉が倒れたことを通し、根っこの大切さ、心田を耕すことの大切さを感じたと結ばれました。

衆議院議員、前原誠司氏は人を植える、人を育てる

ことの大切さを感じていると述べられました。

親の愛情が受けられず、両親がおられるのに児童養護施設に入っている子供がいることや子供が邪魔という親御さんが増えていると報告。施設には18歳までしか入れず、延長しても20歳までであり、卒園後は1割位がホームレスになっている可能性がある、行政の限界を述べるとともに、最後は信仰でしか救えないと宗教団体の活動に期待を寄せられました。

京都佼成議員懇話会の植田府議会議員は幼少の頃の水害体験で米軍のヘリコプターに助けられたことを通し、自助公助の大切さを述べるとともに、繰り返す自然災害に対して皆様と一緒に街づくりをしていかなければならないと語り、青い空、緑の山、清い水がある街、里山を保全することの大切さを披露されました。

佐藤教会長は今年が教会発足60周年であることにふれながら、3人のお話は会長先生の年頭法話に即したもので大変ありがたいと感謝し、会長先生から「自己を進化させてゆこう」と教えて頂いており、法をお伝えする布教伝道に期待を寄せられました。

祝 成人式 ～成人の日記念式典ボランティア&第53回成人式～

【京都市成人の日記念式典ボランティア】

1月14日、京都市勧業館みやこめっせにて「京都市成人の日記念式典～はたちの集い～」が開催され、京都教会からも青年部員10名と姓名鑑定士17名でボランティアを行いました。

記念式典には市内から新成人7867人が参加。当日は穏やかで非常にいい天候に恵まれ、特に大きいトラブルもなく、無事に終える事が出来ました。館外での新成人の誘導、また館内で姓名鑑定に参加される新成人への案内誘導を行いました。

状況の変化に対応しながらも、ボランティア全員が楽しく有り難くさせて頂けたことが、印象に残りました。



今年のテーマは「JOURNEY～終わりなき旅～」。1部式典は法座席で実施。読経供養の後、新成人挨拶で各自自己紹介をし、夢を述べてもらいました。記念品贈呈、佐藤教会長お言葉と続きました。

佐藤教会長は記念品のお礼に「中道」と謹書したと説明。釈尊は中道の大切さを説かれたと述べ、どうすれば中道の見方が出来るかを解説。

まずは、「すべては自分」と受け止めること。普通は自分こそが正しいと見てしまうが、これは偏った見方であり、周りの出来事を通してすべては教えて頂いていると受け取ることが大切だと述べました。

次に、「まず人さま」を心がけること。自分のため、自分のためとならないようにする。この2つが中道の見方のポイントであると解説しました。

最後に19年後は教団創立100年。成人のみなさんはまだ39歳で青年部だと語り、佼成会や日本を支えられる人になって頂きたいと期待を寄せられました。

2部式典は午後から体育館で行われ、生い立ちムービーや手紙披露が行われると、笑いあり涙ありの楽しくありがたい、温かみのあるパーティーになりました。

【第53回成人式】

1月20日、京都教会において第53回成人式が行われ、成人者13名が参加、家族の方や会員がお祝いしました。

右京明社と京洛明社で呼び掛け ～冬晴れの終い天神で恒例の街頭募金活動～

京都の1年を締めくくる縁日「終い天神」でにぎわう12月25日、北野天満宮大鳥居周辺三地点において恒例の右京明社と京洛明社合同による街頭募金活動を実施し20名の参加がありました。当日は晴天にも恵まれ、風もなく、日差しの中で募金の呼び掛けが出来ました。

例年の通り、11時～12時までを京洛明社、12時～13時を右京明社が担当。今年は例年と比較して参加者は減少しましたが、「お願いします！」と呼び掛けると、「寒い中ご苦労さん」と激励の声をかけられ多くの方から善意の募金を頂きました。中には1000

円札を募金された方が9名もおられたと集計担当者から報告がありました。

当日の善意の募金27,216円は、その日のうちに京都共同募金会に持参・寄付。後日、同募金会から、地区明社宛に丁寧な礼状が送られました。



日常生活の中の仏教用語 ～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

言葉のルーツを知って仏教に親しみを持ちましょう。

【甘露（かんろ）】

甘くておいしいことを表す。昔の日本人は、極上の酒のようなおいしい飲み物を口にしたとき、感嘆詞に近い形容詞として、「甘露」を使ったものだった。

もとの意味は古代インドの神々が飲む不老不死の霊液のこと。サンスクリット語では「アムリタ」という。一方中国には、王がよい政治を行うと、天から甘露と

いう液が降ってくるという伝説があり、これがあわさって「不老不死の教え」「慈雨（じう）」という意味から、仏教のたとえとなった。

日本では甘露煮、甘露水など、甘い味つけの食べ物にも使われている。

（「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋）

庭 野 日 敬 開 祖 法 話 集 ~開祖隨感より~

立春(節分)を迎え、「京都教会 60 周年」の年が幕を開けました。人間に例えると「還暦」ですが、心の鬼を祓いつつ、節目の年を迎えたいものです。

「鬼の心と仏の心」

私たちの心の中には鬼の心も仏の心もあって、うっかりしていると、すぐに鬼の心に引きずられてしまうのです。鬼の心というのは、よいことをしなければと思いつつ、つい怠け心のほうに引きずられてしまう心です。また、人のことをうらやんだり、ねたんだりする心も、それです。

悪いことや嫌なことは、みんなまわりのせいにして、人を責めたり憎んだりするのも鬼の心です。それでいつもカッカしているから、頭に角がニョキニョキと生えてくるわけです。心が顔に表われてしまうのです。この鬼の心が疫病神で、その自分の心が不幸を呼び寄せてしまいます。

鬼は外にいるのではなくて、自分の心の中に住みついているのです。それを追いだしてしまわなくてはなりません。どうしたら自分の心の中の鬼を追いだせるのか。まず、人を見たら、いつもニコリと笑うこと、つまり、どんな人にも笑顔で対せるようにと心がけて、それを習慣にしてしまうのです。そして、いつも人さまの身になって考えることです。そう心がけると、いつのまにか角が消えて、仏さまのような柔和な顔になってくるのです。

「事の成就是六十歳から」

定年で仕事を離れ、体力の衰えを感じるようになると、つい引っ込み思案になりがちです。新しいことに取り組むのがおっくうになってきます。だからこそ、自分から積極的に生き甲斐を見つける努力が大切になってくるのです。

「事を成し遂げるのは六十歳から」というのが私の信条ですが、さまざまな分野で大きな仕事を残している人の生き方を見せていただいていると、そういう方は、いくつになっても明日に向かって勉強し続けてお

られます。私たちの肉体や感情をつかさどる古い皮質の脳は、十二、三歳で新しい回路ができなくなってしまふそうです。けれども、それに比べて考えることをつかさどる新しい皮質の脳は、使えば使うほど発達していくというのです。確かに体力は若い人にはかなわなくなりますが、だからといって、あれもこれも、もうできなくなってしまったと嘆くのではなく、長い経験と知恵を、人さまのために生かせるようになれば最高ではないですか。社会に役立てる気持ちの張り、人さまに喜んでもらえる喜びが、充実感を何倍にもしてくれるのです。

「勝利の女神に愛される」

年をとって、見るもの聞くこと、いちいち腹立ちの種になるといふ人がいます。それとは反対に、いつもニコニコと若い人の言うことを聞き、相談にのってあげるお年寄りもいます。その違いはどこにあるのでしょうか。なにもかもしゃくの種という人は、「これだけやってきた私に、みんなが感謝すべきなのだ」とか、「老人はいたわるべきなのだ」と、まわりへの要求や期待が強すぎるのです。自己主張が強いようにみえますが、本当は、周囲への依存心が強いのです。

元気なお年寄りが多く長寿村といわれる村のお年寄りを調べてみると、相手に何かしてもらうのではなく、隣の人に何か自分にできることはないか、都会に出ていった息子夫婦に何かやってあげられることはないかと、それだけを楽しみにしている人が多かったといえます。

将棋の米長邦雄名人が、おもしろいことを言われています。「勝利の女神に愛されるのは、笑いと謙虚さを失わない人。ねたみ、ひがみの人はだめ。だから勝利の女神がいちばんお好きなのは、お釈迦さまだと思います」
(つづく)

2～3月の主な教会行事

2月1日(金)	9:00～	朔日参り
3日(日)	9:00～	節分会
4日(月)	9:00～	開祖さまご命日
10日(日)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(金)	9:00～	涅槃会・釈迦牟尼仏ご命日
3月1日(金)	9:00～	朔日参り
4日(日)	9:00～	開祖さまご命日
5日(月)	9:00～	教団創立 81 周年記念式典
10日(日)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(金)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日

●メッセージ

平成 31 年も1月が終わり平成の時代が刻々と終わりに近づいています。昨年(平成30年)の天皇陛下のお言葉の中に、「平成は戦争のない時代」とおっしゃったことが印象的でした。ご存知のように「昭和」は激動の時代ともいわれ、現在の日本の基礎がこの時代に作られたように思います。マスコミでは平成 30 年を振り返る番組を見かけます。昭和と平成の反省をした上で私たちの手で平和な世の中を作らなければなりません。私たちがそれぞれの持ち場で出来ること、つまり「自己を進化してゆこう」の大切さがしみじみと感じられます。